

コード	304010201
記入日	H23.6.6

課コード	112
課名	こども課
課長名	荒木 宣貴
担当者	佐々木 直子

事務事業途中評価表

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	地域子育て支援事業費
----------	------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 18 年度 ~ 平成 ー 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	3	政策名称	誰もが安心できる保健・医療・福祉の充実	款コード	3
施策コード	304	施策名称	ふれあい、支えあい、助けあい、みんなで育てよう未来の宝	項コード	2
基本事業コード	30401	基本事業名称	地域における子育ての支援	目コード	1
事務事業コード	3040102	事務事業名称	地域子育て支援センター事業費	細目コード	783
関連計画	次世代育成支援地域行動計画		法令・条例規則等	新上五島町地域子育て支援拠点事業実施要綱	

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象しているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 子育て支援相談窓口開設		(対象指標1)	243日			
(対象2) 子育てサークル		(対象指標2)	4団体			
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	・子育て親子の交流の場の提供、子育てにおける悩み事についての相談助言、地域の子育て支援情報提供等を行った。	①	*****	*****	*****	*****
		相談窓口開設日数	243日	100%	相談窓口開設日数243日+開設予定日数243日	平成22年度
		(達成率分析)	電話や来所による相談を毎日受けられるよう施設を開放した。			
		②	*****	*****	*****	*****
		活動回数	84回	100%	活動回数84回+活動予定回数84回	平成22年度
		(達成率分析)	予定どおり子育てサークルの活動支援を行った。			
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
・子育ての不安・負担感の緩和を図り、安心して子育て子育て、また親育ちができるよう地域における子育て支援の拠点として、地域の子育て関連情報の提供を行い、子育てサークルの育成支援、仲間づくりの交流の場の提供、不安を抱えている子育て中の親の相談に応じ助言を行う。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
		①	*****	*****	*****	*****
		助言件数	404件	100%	助言件数404件+相談件数404件	平成22年度
		(達成率分析)	子育てに関する様々な相談について、適切な助言を行った。			
		②	*****	*****	*****	*****
		子育てサークル数	4団体	80%	子育てサークル数4団体+目標サークル数5団体	平成22年度
		(達成率分析)	徐々に活動も増えてきている。今後も活動の推進や新規サークル作りに向けて検討する必要がある。			

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 日	1,178	1,178	935	243	243				
	② 回	440	440	356	84	84				
成果指標	① 件	2,056	2,056	1,652	404	404				
	② 団体	13	12	8	5	4				
総事業費 C (A+B)	千円	41,325	41,121	33,004	8,321	8,117				
直接事業費 A	千円	6,325	6,121	5,004	1,321	1,117				
人件費 B	千円	35,000	35,000	28,000	7,000	7,000				
内訳	従事職員数	人	5.0	5.0	4.0	1.0	1.0			
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円								
	県補助金	千円	6,325	6,121	5,004	1,321	1,117			
	起債	千円								
	その他	千円								
一般財源	千円	35,000	35,000	28,000	7,000	7,000				

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	次世代育成支援行動計画に基づき行うべき事業である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	次世代育成支援行動計画に基づき行うべき事業である。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	次世代育成支援行動計画に基づき行うべき事業であり、県の補助事業実施要綱、町の実施要綱にそって実施している。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	来所や電話相談など、利用者のニーズは高い。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	他の子育て関連施設へ出向き活動をする中で、サークル作りへの助言や相談も増えている。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	子育てに悩む親の孤独感・負担感を解消できる環境がなくなり、育児上の事件や事故の多発化が懸念される。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由	次世代育成支援行動計画に基づき実施しており、目標を掲げる中で他の支援事業と調整・連携を図りながら実施している。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	個人や団体のボランティアの協力で実施している部分もあり、最小限の予算で実施している。
	・人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	補助事業でもあり、基準に沿った体制をとっている。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	支援事業を実施する中で費用が伴う場合は実費を徴収しており、基本的な事業実施上は負担は発生しない。

改善

改善策	1次評価	妥当性	社会情勢から見ても特に必要とする事業であり、次世代育成支援行動計画に基づき行うべき事業でもある。
		有効性	サークル活動も活発であり、来所・電話による相談はもちろん、地域へ出向いた際もさまざまな相談を受けている。
		効率性	廃品の再利用や、ボランティアによる媒体作り等で、費用を抑える工夫をしている。
		課題に向けた改善策	特になし。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	親の子育てに対する不安・負担感を解消するため引き続き支援を行うこと。
		効率性	経費の執行については適正に行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続
		●		事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。